

- 氏名 : 榎村 剛 (エムラ ゴウ)
- 会員番号 : PN0218
- 専門分野 : 建築
- 保有資格 : 一級建築士、コンクリート技士

FE 試験受験 (CBT) : 2020/10 Pass

PE 試験受験 (PPT) : 2021/04 Pass



1. 準備

- Depth の部門は Construction を選択。OSHA や仮設の問題が多く出題された。
- 10 月に FE 試験を受験した後、翌年正月明けから PE の勉強を始め、3 か月強で試験に。単位換算と英語設問に慣れているうちに勉強を再開できて良かった。
- NCEES の試験案内に出題される設計基準が記載されているが、これら書籍を全て集めるのは高価であるため、『Civil Engineering Reference Manual』(以降、『CERM』)を購入。Lindeburg さんの本。ネットで色々調べたが、この本に代わるものはないと思われる。eBay で購入。
- Depth 対策に『Construction Depth Reference Manual』(以降、『CDRM』)を追加で購入。Breadth でも役に立った。eBay で購入。
- CERM と CDRM の問題を繰り返し解いて理解を深める。加えて、問題集を購入。出会った問題は本番でも解けるよう、アンダーラインや注釈、ネットで調べた情報などを CERM と CDRM に書き込みを加えていった。CERM は分厚いので、インデックスを工夫すると試験当日の時間短縮に。
- CERM・CDRM の余白に書ききれないものは、別途ノートを作成。
- 購入した問題集は以下。
 - ① NCEES の公式問題集 (PE Civil : Construction)
 - 実際の試験と同レベルの問題が掲載されている。数字だけ変えたかのような問題もあった。
 - ② PE Civil Practice Problems
 - Lindeburg さんの問題集。かなり難しい (自信喪失する) ので、Depth 用と考え、試験範囲だけ 2 周くらい勉強。米国アマゾンで購入。(eBay は品揃えが良いが、送料が高く遅い。米国アマゾンは、品揃えは eBay に及ばないが、送料も安く早い。)
 - ③ PE Prepared の問題集
 - Breadth × 3、Depth (Construction) × 1 の計 4 冊を日本アマゾンで購入。それぞれ ¥3,000 くらい。1 冊 40 問。実際の試験と同程度か少し易しめの印象 (1 問、試験で全く同じ問題が出た)。
- CERM と CDRM、問題集①～③に加え、英和辞書を持ち込んだ。答えは書いていないが、困った時にヒントをくれるので、持ち込むことをお勧めする。エンジニア用英英辞典を持っていたら、かなり役に立つと思う。
- OSHA は試験範囲が広く、一番苦労した。条文をネットでダウンロードできるが、全て読むこと自体が困難。印刷して持ち込むことも考えたが、試験当日に初めて読んで正解を見つけることは無理。キリがないので、CERM・CDRM、問題集で出会った内容はちゃんと解けるようにし、それを超えることはしないと決めた。

(試験当日、やはり全く分からない問題に出会った。)

2. 試験

- ・会場は、神保町の一橋大。
- ・消しゴム付きのシャープペンがもらえる（自分のものは持ち込めない）。関数電卓（予備も含めて2つ）と15 cm定規（図表読取りや簡単な作図用）を持ち込んだ。
- ・腕時計は持込可。スマートウォッチはダメ。腕時計を外して机の上に置くのは禁止（外す場合は床に置く）。
- ・**コロナ禍での試験のためか、換気するので寒かった**。午前は上着を持ち込まなかったため、トイレを我慢できなかった（が、トイレに行って頭がすっきりしたので、結果的には良かった）。

3. 結果を終えての所感

- ・Breadth、Depth で計 80 問あるが、1 問の採点の比重は同じで、全体の 7 割正答が合格の基準（NCEES のガイダンスより）。感覚的には 6 割強くらい正答した印象（Breadth8 割、Depth5~6 割）だったが、合格だった。
- ・勉強の進め方として、**まずは Breadth を確実に解ける様になるべき**。範囲が広いが浅く、さらっと勉強するくらいで解ける様になるので効果が高い。一方 Depth は、全問解答するにはかなり深掘りした勉強が必要。
- ・Breadth、Depth とも、単位換算さえ間違えなければ、短時間で確実に正答できる問題がある。
- ・単純計算で 6 分/1 問だが、前述の通り 6 分かからない問題があるので、過度に気にしない方が良い。逆に、限られた時間で正答を導けないと感じる問題もあったので、これに固執せず、7 割を目指して確実に正答できる問題の確認に時間を使った。
- ・Depth は全く分からない問題が複数あった。特に OSHA の問題の一部はかなり難しかったので、どうやって準備すれば良かったのか、正直分からない。

以上